



吃音の声に宿る“音楽”に耳を傾けてみませんか？



吃音から広がる コミュニケーションの未来

Listening, SPACE & Voice



吃音のあるミュージシャン、ルーク・ワイランドと、SPACE共同創設者のエイダン・サンクを迎えた特別イベント。
吃音の声から生まれる音楽を体験し、新しい「聴き方」に出会い、あなた自身の声を世界につながる“声のライブラリー”に加えてみませんか。

5/23 土

開始 10:30
終了 17:00

参加費 無料

日英 逐次通訳あり



Luke Wyland (ルーク・ワイランド)

アーティスト・作曲家・パフォーマー

アメリカ・オレゴン州ポートランドを拠点に活動する音楽アーティスト。吃音の当事者として、声や言語、コミュニケーションをテーマに作品制作。非営利団体「SPACE」との協働により、吃音のある人々の声を記録・共有するプロジェクト「Library of Dysfluent Voices (吃音の声のライブラリ)」のキュレーションにも携わる。



Aidan Sank (エイダン・サンク)

SPACE共同創設者・吃音の理解と支援に取り組むコミュニティアート実践者

吃音のある人々のための非営利団体「SPACE」の共同創設者・エグゼクティブディレクター。カナダ・バンクーバーを拠点に、吃音とコミュニティ・アートを軸に活動。吃音当事者とともに、表現や対話の場づくりを通して、コミュニティ形成や支援・アドボカシーを推進している。

～吃音（きつおん）を手がかりに、「話すこと」と「聴くこと」を見つめ直す
ワークショップ&パフォーマンスイベントです～

タイムテーブル ※詳しくは裏面をご覧ください ※途中参加・一部参加も可能です

10:30-12:00	14:00-17:00
オープンリスニング ワークショップ (90分) Open Listening Workshop Luke Wyland & Aidan Sank	<ul style="list-style-type: none"> ・講話 (45分) Creating SPACE for StutteringLuke Wyland & Aidan Sank ・パフォーマンス (45分) A Person SspeakingLuke Wyland ・吃音のある大学生による体験談 (20分) Listening to the Journeys of University Students Who Stutter ・録音セッション (45分) Library of Dysfluent VoicesLuke Wyland & Aidan Sank

アクセス

広島大学東広島キャンパス
教育学部棟 L棟205

広島県東広島市鏡山一丁目1番1号

※当日は教育学部管理棟入口
からお入りください

お申込み方法

どなたでも参加無料 定員100名(先着順)

吃音当事者やそのご家族はもちろん、教育・医療・福祉・芸術などに
関わる方、また関心のあるすべての方にご参加いただけます！

右記の二次元コードよりお申込みください→



お申込みぴ切

5月20日(水) 15:00まで

【主催】 広島大学ダイバーシティ&インクルージョン推進機構
ウェルビーイング推進室

【共催】 きつおん親子カフェ



【お問合せ】

ウェルビーイング推進室・川合紀宗
✉ nkawai@hiroshima-u.ac.jp



HIROSHIMA_UNIV_D_AND_I

TIME TABLE 5/23(土)

～声・吃音・音を通して、新しいつながりをひらく時間へ～

午前の部

※途中参加・一部参加も可能です

10:30-12:00

オープンリスニング ワークショップ (90分) Open Listening Workshop Luke Wyland & Aidan Sank

吃音のある人々の経験に基づき、「聴くこと」を見つめ直す参加型ワークショップ。多様な話し方と出会いながら、柔軟で共感的なリスニングのあり方を体験しましょう。

【内容 (予定)】 ①自己紹介 ②吃音の基礎知識 ③「7秒の沈黙」エクササイズ・オープンリスニングの3原則 ④リスニングスタイルの体験 ⑤グループ対話と振り返り

【昼休憩中】吃音VR体験コーナーあり

この体験会は、科研費 基盤研究(A)「バーチャル・リアリティ環境下における吃音治療システムの開発」(研究課題/領域番号: 24H00166、研究代表者: 川合紀宗、広島大学) の助成を受けて実施しています。



午後の部

14:00-14:45

講話 (45分) Creating SPACE for Stuttering Luke Wyland & Aidan Sank

吃音のある人々のための支援・アート・アドボカシーを統合した実践を紹介。「吃音の誇り」「表現としてのアート」「コミュニケーション・アクセス」などを手がかりに、共に生きる社会の新たな可能性を提示します。

14:50-15:35

パフォーマンス (45分) A Person Ssspeaking Luke Wyland

吃音のある人々の声を収集した国際アーカイブ「Library of Dysfluent Voices」をもとに構成された音響映像作品。声の繰り返しや間、詰まりといったリズムを音と映像に変換し、吃音の身体的・感覚的経験を共有しましょう。

15:45-16:05

体験談 (20分) Listening to the Journeys of University Students Who Stutter

吃音のある大学生が、これまでの経験や思いを共有します。

スペシャル企画

16:15-17:00

録音セッション (45分) Library of Dysfluent Voices Luke Wyland & Aidan Sank



多様な話し方を記録し、アーカイブする参加型セッション。自身の声を記録し、「非流暢な声のライブラリー」を共に作ってみましょう。

※吃音のある方と、そのご家族(希望者)のみ参加できます。